

かごしま NIE通信

教育に新聞を



Newspaper in Education

発行 鹿児島県NIE推進協議会 (南日本新聞社内) 〒890-8603 鹿児島市与次郎1-9-33
電話 099 (813) 5168 FAX 099 (813) 5017 メール nie-kago@373news.com

今年度も鹿児島県のNIE実践校は意欲的に活動しています。特に、新聞を使うのが難しいとされる低学年や、英語や道徳など幅広い科目で活用するなど、多彩で工夫を凝らした取り組みが目立っています。



新聞を使って色探しゲームをする児童

英語 ゲーム感覚で親しみ

■大川内小学校
出水市の大川内小学校は1・2年生の複式学級で2月5日、外国語学習の公開授業をしました。児童たちは黒板に張られたさまざまな色のカードを見ながら英語での表現を復習。その後、新聞から色探しゲームをしました。「レッド」「ブルー」と、紙面を指しながら児童が元気よく手を挙げる。西山真里子教諭が「winner」と、声をかけました。最後に「プリーズ」「サ

ンキユー」などの表現を使いながら友達とほいほいのカードを交換するゲームを楽しく行いました。授業は英語でコミュニケーション

ケーションすること、新聞を身近に親しむことを目標に行われました。西山教諭は「新聞でアルファベット探などもやりたい」と話しました。

新聞活用 広がる教科

道徳 社会の変化に気づき

■川辺中学校

南九州市の川辺中学校では道徳の視点から、NIEにアプローチする研究授業が、2月13日行われました。II写真。

1年生の授業で、主題

は「伝統と文化の継承」。東まどか教諭が「新築住宅から床の間が減っている」という新聞記事を紹介し、生活様式の変化を感じ取らせました。その後、生徒らは、京都の老舗菓子店の菓子司が

「二期一会を大切に、仕事に打ち込む姿を紹介する資料を読み、伝統について考えました。最後に東教諭が「菓子司はロボットにもできる仕事だろうか」と質問を投げかけ、グループで話し合いました。生徒からは「ロボットは人と違い、



菓子を食べる人をもって作れない」などの意見が出ました。授業後、生徒たちは学んだことや感じたことをはがき新聞にまとめていきます。東教諭は「授業をはがき新聞にまとめることを通して、思考力や表現力をつけさせたい」と話しています。

助言指導者の曾於市教委の畑添辰也指導主事は「児童が伸び伸び新聞を見る姿が印象的だった。低学年は新聞を楽しく活用できることが大切。貴重な実践を積み重ね、学力の定着につなげてほしい」と語りました。



■大隅南小学校 新聞から 片仮名拾う

曾於市の大隅南小学校は11月20日、新聞活用が難しい1・2年生の複式学級で研究授業を行いました。II写真。1年は「かたかなをかこう」、2年は「かたかなで書くことば」を主題に、片仮名の読み方や決まりを学びました。

その後、児童たちは子ども新聞から片仮名を拾い、書き写しました。さらに2年生は、選んだ片仮名を言葉の決まりに沿って分類しました。武石弘子教諭が授業を行いました。

